

教育学部の卒業生、教育学研究科及び特別専攻科の修了生のみなさんへ

卒業生、修了生のみなさん、おめでとうございます。

心からお喜びを、と申し上げたいところですが、新型コロナウイルス感染のもとで、昨年度に引き続き例年通りの卒業式ができず、さぞかし残念かつ悔しい思いをされているかと思えます。

すでに一年に及ぶ自粛や制限が続き、この先の収束もまだ見通せない中で、みなさんの不安、不満が鬱積していることと察します。授業や卒業・修了研究でも、入構規制などによって相当な不便をおかけしてしまいました。送別会や謝恩会も中止になり、私たち教員も寂しい思いをしています。

しかし、もっと残念なことは、自分や周囲の人が感染していない限り、一見して普段とさほど変わらない日常を過ごしているようにも思えますが、すでに多くの人亡くなり、さらには感染者やその家族、そして医療従事者に対し心ない言動が各地でなされていることです。非常事態宣言解除によるリバウンドが懸念されますが、単に気を緩めることへの警戒だけでなく、改めて社会の在り方を問い直すことを私たちは求められています。

このような状況の中で、どのような言葉を贈るべきか迷いましたが、やはり、みなさんの今後のご活躍を期待するとともに、茨城大学で築いてきた友達や先生方とのつながりを、これからも大切にしていきたいと思えます。

多くの方は教員になると思います。教育界の様々な変化は今に始まってことではありませんが、今回のウイルス感染はさらにそれに拍車をかけました。今の状況は確かに大きな災難ですが、これまで私たちが当たり前だと思っていた多くのことを見直す良い機会にもなりました。学校の授業では対面の大切さを再認識すると同時に、オンラインを活用することによる新たな可能性を見出すことができました。今後は対面とオンラインを上手に組み合わせ合わせた授業実践がさらに展開されていくことでしょう。激しい変化にただ適応するのではなく、みなさん自身が変化を生み出し、未来の教育を切り拓いていただきたいと思えます。

教員にならない人についても、正直残念な思いがありますが、人生は人それぞれですので、自分が納得できる、充実した生活を送っていかれることを願っています。

私たちは、卒業生・修了生のみなさんをいつでも暖かく迎えていきます。

みなさんの健康と輝かしい未来を祈念して。

2021（令和3）年3月23日

教育学部長・教育学研究科長
荒川 智